

震災リゲイン

Press プレス

編集 1106-0044 東京都港区東新橋2-28-6 Tel: 03-3584-3430 Fax: 03-3560-2047

特集 食から始める防災

2画 ●小特集:映画でみる震災と復興 ●読者プレゼント

3画 ●巻頭:東海にこそ備えたい非常食

4画 ●未来の震災に備える備蓄

非常食を、いざ実食!

ここぞというときに困らない、食から考える防災

文:新創画社



体験
レポート

—小特集—

映画でみる 震災と 復興

「語ること」と「聴くこと」で残るもの『東北記録映画三部作』

監督:酒井耕・濱口竜介

配給:サイレントヴォイス

第一部「なみのこえ」2011年 142分

第二部「なみのこえ」2013年 109分(気仙沼)

+ 103分(新地町)

第三部「うたうひと」2013年 120分



映画をみる
上映会を聞く

上:「なみのこえ」 下:「うたうひと」 ©サイレントヴォイス

第一部は震災直後に、第二部は約一年後に、カメラの前で震災について話す二人は、三陸沿岸で被災した夫婦だったり友だちだったり、親子だったり。やがて映画が進んでいくにつれ、「あれ?」という疑問が生じる。ごく近い同士のはずの二人が、こんなに大きなことについてこれまで話していなかったのだろうか? たとえば第一部では「あの日までどうしてきたか、あの時何を感じたか」、第二部では「今何を感じているか、これからどうしていきたいか」。お互い初めて耳にする相手の胸の内に、「へえ、そんなこと考えてたんだ」という言葉さえ漏れる。

「語ること」も「聴くこと」も、ただそこに誰か居るだけで簡単にできることでは実はない。震災に限らず会話の大切さが言われるようになって久しいが、本当に必要なのは個人的な力ではなく、日々の暮らしの中で身近な人たちと「今から語りあいましょう」という場をどれだけ築

いているかではないか。そしてその「場」が日々の暮らしから失われつつあるのではないか。それをこの映画は気づかせてくれる。「果たして自分たちには日常だけこういう場があるだろうか?」と、映画の中の夫婦や友人たちを、我が身に置き換えずにはいられないくなる。そして、この映画の撮影自体が東北の人たちにとっての「語り合いと聴き合いの場」となり、だから皆それまで話したことがない思いを言葉にして大切な人に伝えはじめるのだということがわかってくる。おそらく、これをただ綿々と続けていくことでしか残らないものこそが、三部作の最後に行き着く「民話」の世界なのかもしれない。そこで語られている民話が哀しくも豊かに心打つのは、人びとが「語り合いと聴き合いの場」を大事に訪いできた、その結果育まれたものだから...

被災風景を映すことをあえて避けたこの三部作により、震災の「語り合いと聴き合いの場」が100年後まで訪がれていいたら、そこで見られるものは果たして「民話」なのか、それともまったく別の形になっているのか。この映画を観る人は、スクリーンで語る人の声を聴く一人として貴重なその「場」に参加し、そしてそれを自分自身の日常にも作るうとしはじめるだろう。(中川智雄)

【鑑賞・上映のお問合せ】サイレントヴォイス 電話: 03-3584-0286

E-mail: info@silentvoice.jp http://silentvoice.jp/



©桜映画社

映画をみる
上映会を聞く

【鑑賞・上映のお問合せ】桜映画社

電話: 03-3478-6110 E-mail: info@sakuraeiga.com

http://www.sakuraeiga.com/tensaka/

福島のみづくりを未来につなぐ営み『天に栄える村』

監督:原村政樹

配給:桜映画社 2013年 106分

放射性物質が降下した福島県天栄村で、再び安全で美味しい米を作ろうと奮闘する米農家たちの日々が丹念に描かれる。「悲劇のドラマ」などではない。声高な主張もない。しかし見るものに胸に染みて、震災後の時間の蓄積、その重みを感じさせてくれるだろう。土に生きる人々の行動は、とにかくすべてが具体的だ。徹底的な計測。現状を数値で把握し、安全な米作りのための方法を理詰めで割り出

していく。天栄村は、震災の前から地域の農業振興のための改革を見事に成功させ、「食味日本一」の栄冠を獲得した土地だった。その蓄積をもとに、困難は克服されたのだ。爽りの秋、運命の測定の日がやってくる。結果は不検出。米農家たちの顔に、初めてえも言われぬ安堵の表情が浮かぶ。感動的だ。だが同時に、自分がこれまでいかにうわべでしか「食」や「農」とその「安全」を理解していなかったかも痛感した。「当たり前」がいかに貴重であるか。誰かのようにそれを再生しようとしているのか。誰に對してもたくさん「気付き」を与えてくれるだろう。(三浦智哉)

失われるもの/つなぐものを考える

『ASAHI TV 人間探検 びこへ行く』

上映会を聞く

一般社団法人コミュニティシネマセンター

電話: 050-3535-1573 E-mail: film3@cj3.jp

【お知らせ:掲載記事】

2014. 3. 20発行 震災リゲイン